



特別
展
示

Special Exhibition

FORMOSA



—— 異端の植物学者 早田文藏

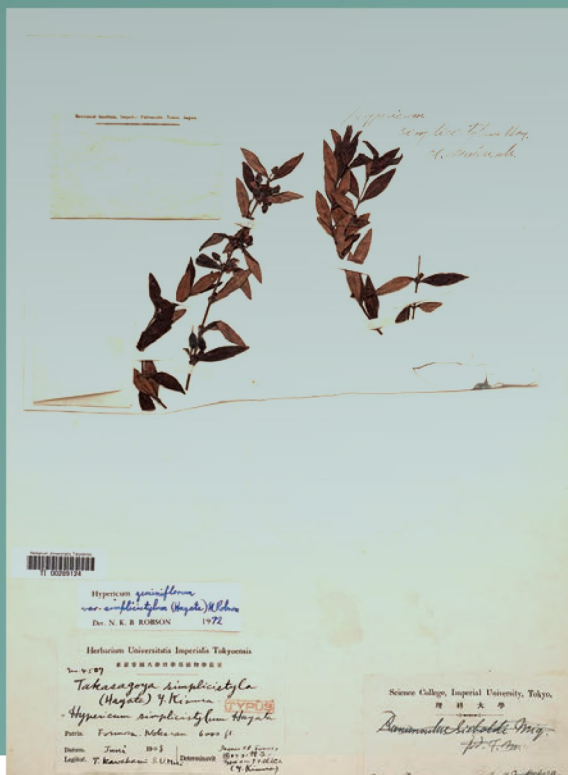
2025.04.24thu — 09.05fri



—— A Heretical Botanist
Bunzo Hayata

Fig. 1. A sketch showing an arrangement of three or four
beads on a long stem, which Hayata found to be as if
beads were on their own. Although in the above case, a
stem is not a leaflet, i.e., I regarded the stem as a leaf in the
figure, many may be extended in various ways, of three
and many beads may be regarded as a leaf below of three. (Hayata)

Hayata's (the present)
view on the arrangement of
beads on a stem may
be very strange that
one of the most famous
botanists of the world.



東京大学
総合研究
博物館



本館企画展示室

THE UNIVERSITY MUSEUM, THE UNIVERSITY OF TOKYO

東京都文京区本郷7-3-1 (東京大学本郷キャンパス内)

開館時間: 10:00-17:00 (入館は16:30まで)

休館日: 土曜・日曜・祝日 (ただし、講演会開催日は13:00-17:00開館)

入館無料 Admission free

主催: 東京大学総合研究博物館

協力: 東京大学大学院理学系研究科附属植物園

台湾農業部林業試験所

国立台湾大学生態学・演化生物学研究所

早田文蔵(1874-1934)は、新潟県出身の植物学者です。1904年から亡くなるまで東京帝国大学に奉職し、附属植物園(通称:小石川植物園)の第3代園長を務めるとともに、富士山や台湾、東南アジアの植物に関する研究を進めました。特に台湾の植物に関しては、1600種を超える植物に命名し、「台湾植物学の父」とも称されます。早田はオーソドックスな分類学的研究だけではなく、植物の群落遷移や分類体系、あるいは内部形態などに関する独自の学説を提唱しました。しかし、早田の学説は当時の日本の学者や学会から好意的な評価を得ることはありませんでした。

本特別展では、異端の植物学者とされる早田文蔵が残した資料を提示しながら、早田の生涯と業績を紹介するとともに、早田の思想が現代の生物学に示唆する意義について考察したいと思います。

(※タイトルの「FORMOSA」は、「台湾」を指すと同時に、ポルトガル語で「美しい」という意味です。早田文蔵の紹介をするのに良い言葉と考えました。)

【講演会】※(開催日は13:00-17:00開館)

- ① 5月25日(日) 15:00-16:00
「早田文蔵の生涯と業績」 池田 博(東京大学総合研究博物館・准教授)
- ② 6月15日(日) 15:00-16:00
「ゲーテ[植物変態論]と早田文蔵」 山中慎太郎(東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程)
- ③ 6月29日(日) 15:00-16:00
「早田文蔵の[動的分類学説]と[華厳思想]」 中村陽一(秋草学園短期大学・名誉教授)
- ④ 7月13日(日) 15:00-16:00
「早田文蔵の生命論と法華経」 中尾 暁(広島大学大学院人間社会科学研究科・研究員)
- ⑤ 7月27日(日) 15:00-16:00
「早田文蔵による台湾と富士山の植生と遷移」 支倉千賀子(東京農業大学農学部・非常勤講師)
- ⑥ 8月10日(日) 15:00-16:30
「富士山亜高山帯の森林遷移と早田文蔵の[動的分類学説]」 中村俊彦(東京大学大学院・農学特定支援員)
- ⑦ 8月24日(日) 15:00-16:30
「早田植物学と台湾」 大場秀章(東京大学・名誉教授)

会場:東京大学総合研究博物館7階ミュージズホール(集合場所は1階展示会場内)／定員:50名(先着順、申込不要)

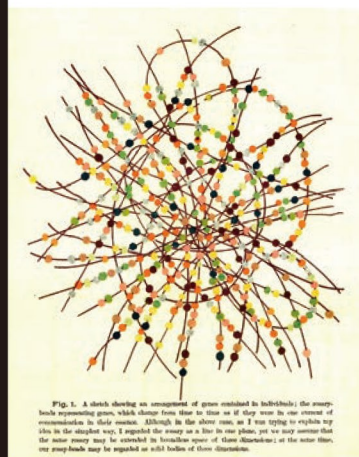


Fig. 1. A sketch showing an arrangement of grasses exhibited in individual; the group heads appearing grass, which change from their state as if they were in the state of commutation in their natural. Although in the above case, as I was trying to explain my idea in the simplest way, I regarded the group as a line in the above, yet we may assume that the same group may be extended in horizontal space of their dimensions at the same time, and group heads may be regarded as solid bodies of these dimensions.

「動的分類系」を示すネットワーク図



「中心柱説」を説明するために切り出したシダの根茎



富士山植物群落研究のために撮影された写真(1924年 早田撮影)

表写真上より:富士山産標本(フジセンニンソウのタイプ標本)、
東南アジア調査写真(1921年 早田撮影)、早田文蔵の肖像、
切り分けられた標本(*Hypericum simplicistylum* Hayataのタイプ標本の上半分)



東南アジア産標本
(新属新種 *Protomarattia tonkinensis* Hayata のタイプ標本)



蘇苔類標本(1899年採集 天城産)

主催:東京大学総合研究博物館

協力:東京大学大学院理学系研究科附属植物園 台湾農業部林業試験所 国立台湾大学生態学・演化生物学研究所

企画・総指揮:池田 博/展示デザイン:洪 恒夫・吉田真司/グラフィックデザイン:関岡裕之

東京大学総合研究博物館 The University Museum, The University of Tokyo

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

お問い合わせ:050-5541-8600(ハローダイヤル)

URL: <https://www.um.u-tokyo.ac.jp>

アクセス:東京メトロ丸ノ内線「本郷三丁目」駅より徒歩6分、

都営大江戸線「本郷三丁目」駅より徒歩3分



お問い合わせ:東京大学総合研究博物館事務室
TEL/050-5541-8600(ハローダイヤル)
URL: <https://www.um.u-tokyo.ac.jp>



東京大学総合研究博物館
The University Museum, The University of Tokyo

